

地域の安全・安心な生活を続けていくために待ち続けた悲願

北杜女性みちの会

会長 小宮山ひろみ

北杜女性みちの会

北杜女性みちの会は、市商工会女性部役員が主体となり、道路の環境美化活動をはじめ、中部横断自動車道の早期建設に向けた、促進活動や、女性の視点から「みちづくり」についての情報交換や意識啓発を行うなど、地域活性化に貢献することを目的とした活動を行なっています。今年で11年目を迎えることが出来ました。

昨年1年間の活動報告をさせていただきますと、8月には、八千穂インターチェンジの工事の様子を現地視察致しました。現地では実際に工事現場に入らせてもらい、国土交通省の担当者から説明を受けました。橋梁工事を間近で見て、その工事の規模の大きさにびっくりさせられました。また、10月には小海町で行われました長野県～山梨県女性みちの会交流会の後、新潟県において開催された、ルート日本海～太平洋シンポジウムに参加し、沿線のみちの会の方々と交流を深めながら、高速道路の重要性・必要性を話し合うとともに、中部横断自動車道の早期実現に向け一致団結しました。

中部横断自動車道に寄せる期待

昭和62年に中部横断自動車道が、予定路線として私達に広く知らされてから、29年目を迎えます。女性みちの会の結成以前から「君は太平洋を見たか。僕は日本海を見たい。」をスローガンに、多くの住民・団体が、地域の安全・安心な生活を続けていくために待ち続けた悲願です。

中部横断自動車道は、通過する静岡・山梨・長野・新潟の4県だけのためではなく、日本中の多くの皆様に4県の魅力を伝えるための交通網として、また、物流や災害時の代替道路として、非常に重要な道路であると思います。沿線住民の生命を守り、快適な生活の営みや、広域的な医療・救急体制などの確立に大きな期待が寄せられます。北杜市にも、さまざまな効果がもたらされるものと考えられます。

そして、中部横断自動車道のもたらす効果を最大限に発揮させるためには、全区間の開通が必要であり、全力を挙げて整備促進を図らなければなりません。

女性みちの会の今後の活動に向けて

先人が築き上げ、育ててきた自然環境を保全しつつ、国・県・市が協力して、早期整備に向けて進んで欲しい。本日、長野県と山梨県両県による総決起の集会が開催されたことを契機に、私達「女性みちの会」をはじめとする両県の住民が、早期整備に向けて一丸となって取り組むことをお約束します。